

「身近な消費生活と環境」

～消費生活アドバイザー育成講座 めざせ！情熱大陸 出演～

本題材で育成する資質・能力

(教科) 実践的な態度
(学校) 表現力, コミュニケーション能力, 主体性

- 1 日時 平成30年11月16日 13:30～14:20
- 2 学年 第2学年1組 (男子18名 女子19名 合計37名)
- 3 場所 被服室
- 4 題材について

- 本題材は中学校学習指導要領技術・家庭(平成20年)家庭分野の内容D「身近な消費生活と環境」の「(2)家庭生活と環境」において設定したものである。環境に配慮した消費生活の重要性に気づき、家庭での実践ができるようにすることをねらいとしている。これからの持続可能な社会の実現に向け、自分や家族の生活の仕方や消費の在り方を改善することなど、消費者としての自覚を高めるようにする必要がある。本題材では、内容Dの「(1)家庭生活と消費」の学習や内容C「衣生活・住生活と自立」の学習との関連を図り、1年次に社会科の南アメリカ州で学んだ内容を振り返らせ、家庭科の面からの自分や家族の消費生活における環境への影響を考えさせる。題材全体を通して問題解決を目指すことにより、中学生の、消費者としての自覚を高めることができる題材である。
- 生徒の消費生活や環境に関わる学習についての意識調査を行った。

生徒の消費生活や環境に関わる学習についての意識調査(2年生 107人)

		肯定的回答
(1)	消費生活に関する学習に興味・関心がありますか。	66% (71人)
(2)	物を購入する際に、環境問題を考えて購入していますか。	37% (40人)
(3)	文房具や物を無くしたときに見つかるまで探しますか。	26% (28人)
(4)	環境問題について興味・関心がありますか。	81% (87人)

環境問題について興味・関心があると答えている生徒は80%をこえているのに対し、消費生活への学習に興味があると答えている生徒は66%と高くなく、購入する際に、環境問題を考えて購入している生徒は37%と少ない。また文房具や物を無くしたときに見つかるまで探す生徒は26%と少なく、このことから、生徒は消費生活に課題意識が乏しく、消費生活への関心を高める学習指導の工夫が必要と考える。

○ 家庭科では、実践的・体験的な学習活動を通して具体的に学習することが重要である。そのため、本題材では指導の工夫として、1年次に社会科の南アメリカ州で学んだ内容を思い出させ、2年1組の担任が夏休みにスリランカへ行って日本との生活の違いや環境問題について考えたことを取り上げ、2年1組の担任のために具体的な取り組み例を考えさせる。自分たちの身近な担任のために考えることで意欲的に学習に取り組むことができると考える。また、望ましい消費生活の在り方について学習を深めることで、消費生活に関心を持たせるとともに、題材の中で、自分や家族の消費生活から、家庭生活の過ごし方の問題(水・電気・ゴミなど)に広がるように、多面的な視点で消費生活を捉えるように配慮し、指導することで、消費者としての自覚を高めたい。生徒の主体的な学びとなるように、次のような工夫をする。

- ① 興味を持つような学習課題を設定し、提示の仕方を工夫して、意欲を持たせる。
- ② グループで意見を交流し合うことで意欲を高めさせる。
- ③ 「エコ生活レポート」を課題とし、家庭での実践につなげる。

また、本校の今年度の研究である、思考を深める学び合いを授業で意識する。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科、領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本題材においても、「解決したい」或いは「達成したい」学習課題を設定し、学習班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

	資質・能力	レベル1	レベル2	レベル3
知識・スキル	授業の展開の場面で（ミニホワイトボード等を使用して）			
	表現力・コミュニケーション能力	（話す） 自分の考えや意見を、自分のことばで、表現することができる。	わかりやすく（伝える） 自分の考えや意見を、わかりやすくまとめ、自分のことばで、表現することができる。	（説得する） 自分の考えや意見を、わかりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で、表現することができる。
		（聞く） 相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、聞いている。	（聴く） 話の組み立て構造を考えながら、相手の意図や要点を整理しながら、聴くことができる。	（訊く） 相手の考えについて根拠の信頼性を判断しながら、訊くことができる。話された内容と自分の意見をふまえて疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。
		聞いて質問することができる。 （やりとり1回）	さらに深めた質問ができる。 （やりとり2回）	質問の後に自分の意見を述べ、内容を深めることができる。 （やりとり3回以上）
意欲・態度	主体性	課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。	課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで、取り組もうとしている。	自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで、取り組もうとしている。

6 題材の目標

自分や家族の消費生活が環境に与える影響がわかり、環境に配慮した消費生活を工夫し、実践できる。
学習指導要領D（2）ア

7 題材の評価規準

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を 工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
自分や家族の消費生活が環境に与える影響について関心を持ち、環境に配慮した消費生活を実践しようとしている。			自分や家族の消費行動が環境に与える影響について理解している。

8 指導計画（3時間）

単元を貫く問い

過程	次	学習内容（時数）	観 点				評 価	
			関意	工夫	技能	知理	評価規準	資質・能力 （評価方法）
プロローグ（単元を貫く問い）			環境に配慮した消費生活とはどのような生活であろうか。					
課題の設定・情報収集	1	○自ら取り組むエコ生活を考える。 （1時間）	○				・自分や家族の消費生活が環境に与える影響について関心をもっている。	【主体性】（ワークシート）
整理・分析・まとめ・創造・表現	2	○消費生活アドバイスを考えよう。 （1時間） 【本時1／1】				○	・自分や家族の消費行動が環境に与える影響について理解している。	【コミュニケーション能力】（行動観察・ワークシート）
○アドバイスを各自が家庭で実践する。			【実践的な態度】（レポート）					
実行・振り返り	3	○日比崎中学校のグリーンコンシューマーを探す。 （1時間）	◎				・自分や家族の消費生活が環境に与える影響について関心を持ち、環境に配慮した消費生活を実践しようとしている。	【表現力】（行動観察・ワークシート）
エピローグ（単元を貫く問いの解決）			持続可能な社会を目指し、自らできる対策を衣・食・住（水・電気・ゴミ問題・買い物）などの面から実践していく生活である。					

9 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・これまでに学習した内容を活かして、自分や家族の消費行動が環境に与える影響について理解し、実践可能なアドバイスを考えることができる。
- ・アイデアを分類・整理しキーワードにまとめることができる。

(2) 本時の評価規準

自分や家族の消費行動が環境に与える影響について理解している。

（生活や技術についての知識・理解）

(3) 準備物

教科書，ワークシート，写真，ホワイトボード（黒板 生徒用）

(4) 学習の流れ (2時間目/全3時間)

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて)	評価規準 [観点] ★資質・能力 (評価方法)
1 前時の振り返り。[3分]		
・前時に考えたアイデアを振り返る。	◇既習事項を確認させる。	
2 本時の課題を設定する。[5分]		
・導入ビデオの視聴	◇1年次, 社会で地球温暖化について考えた内容とつなげて考えさせていく。 ※予め, 学習課題提示のためのビデオを作成する。 (学年担当の教諭が出演するようにしておく)	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学習課題 ～消費生活アドバイザー育成講座 めざせ!情熱大陸 出演～ 地球に優しい生活を, 簡単なキーワードでアドバイスしよう。</p> </div>		
3 ねらいを確認する。[5分]		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ねらい 地球に優しい生活について, 具体的に実践可能なアドバイスを考えることができる。</p> </div>		
4 情報を整理・分析し, 課題解決をする。[14分]		
・アイデアを整理・分類し, まとめていく。 自分の考え (キーワード) をまとめる	◇前時にでたアイデアを紙にまとめ, 個人用, グループ用, 全体用を準備しておく。 ◆家庭科で使う言葉を利用して考えればよいことを伝える。	
(5分)	予想される考え ・長期, 短期。 ・早い, 簡単, 続ける。 ・朝, 昼, 晩。 など	
班での話し合い (9分) ・考えをまとめる	◇個人の考えを出し合い, グループで話し合わせる。 ◆自分では気づかなかった点を話し合いから見つけさせる。	【コミュニケーション能力】★ (行動観察)
5 課題解決について発表をする。[10分]		
・全体で考えを発表する (9グループ) (10分)	◇意図的指名で時間内に発表させる。 (少数意見から順に発表させる) ◆自分では気づかなかった点を見つけさせる。	
	予想される考え ・衣生活, 食生活, 住生活。 ・水, 電気。 ・節水, 節約。 など	

導入の工夫

小グループでの活用

6 「思考を深める学び合い」[8分]

・みんなの考えをまとめ、
キーワードを導き出す。

◇既習事項を振り返らせ、整理する。
◆キーワードをメモさせる。
◇家庭科の学習の視点について確認する

【コミュニケーション能力】★（行動観察）
・自分や家族の消費行動が環境に与える影響について理解している。
〔知識・理解〕（ワークシート）

まとめ

・持続可能な社会を目指す生活（地球に優しくする）は、衣・食・住や水・電気・ゴミ・買い物の面から意識する必要がある。

7 本時を振り返り、次時につなげる。[5分]

・振り返りを書く。

◇何がわかったのか、何がわからなかったのかを考えさせる。

・自分や家族の消費行動が環境に与える影響について理解している。
〔知識・理解〕（ワークシート）

生徒の振り返り

・地球に優しい生活を、自分は、水を大切にすることから始めたいと思います。なぜなら豪雨災害で断水になった経験があるからです。少しずつでも行動をしていきたいです。

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

尺度（評点・レベル）	記述語
A（理想的）	地球に優しい生活について、衣・食・住や水・電気・ゴミ・買い物の面などのキーワードを用いて理由とともに、自分や家族の消費行動が環境に与える影響について理解したうえで具体的に実践可能なアドバイスを一つ以上考えることができる。
B（合格）	地球に優しい生活について、衣・食・住や水・電気・ゴミ・買い物の面などのキーワードを用いて自分や家族の消費行動が環境に与える影響について理解したうえで具体的に実践可能なアドバイスを一つ以上考えることができる。
C（乗り越えさせたい実態）	地球に優しい生活について、アドバイスを一つ考えることができる。

(5) 板書計画

<table border="1"> <tr><td>題材名</td></tr> <tr><td>ねらい</td></tr> <tr><td>学習課題</td></tr> </table>	題材名	ねらい	学習課題	先生について	キーワード	ホワイトボード
題材名						
ねらい						
学習課題						
前時のアイデア						
まとめ						

